

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|---------------------------|--|
| 青砥 恭 | あおと やすし | 特定非営利活動法人さいたまユースサポートネット | さいたまユースサポートネットでは、学習支援や居場所など行政からの委託事業やボランティア活動を通して貧困など様々な困難を抱えて孤立する子ども・若者を社会につなぐ活動をしています。主にさいたま市で活動をしており、行政、地域の自治会、企業、地域で様々な分野で支援活動を行っているNPO等と連携し、地域づくりを目標に居場所づくりを行っています。 |
| 朝比奈 一郎 | あさひな いちろう | 青山社中株式会社 | 上記の通り、現在7つの自治体においてアドバイザーを務めており、自治体における若手リーダーの育成や、産業・観光などに関する政策提言、インバウンド・アウトバウンドを含む自治体外交の推進などを支援。 1. 人材育成:リーダー(始動者)の育成…自治体における起業家育成塾、リーダー塾の開催・運営、等 例)群馬県沼田市における起業家養成塾「ぬまた起業塾」の創設・運営 - 平成27年に創設され、毎年10名前後を対象に、全13日に渡るプログラム 例)奈良県生駒市における行政の選抜職員向け政策立案研修の実施 - 選抜された職員へ政策形成手法などの導入研修を実施、その後各自の政策立案をサポート、報告会を実施 2. 地域・自治体:基礎自治体における経済活性・地方の自立支援…産業活性化や観光業の高付加価値化に向けた 政策提言、駅前・中心市街地開発、住民自走によるまちづくりに向けた参加型ワークショップ、等 例)三条市における課題分析から各種施策の提案・実行 - 市の現状を客観的に分析、その結果を踏まえて施策を提言。実現されたものには、燕三条 工場の祭典、障がい者の就労支援施設の開所、滞在型職業 訓練施設「しただ塾」の創設など 例)長野県軽井沢町における住民主体のまちづくりのための風土フォーラム・ワークショップの運営・推進 - 軽井沢の特徴・歴史・これまでの経緯を重視し、他に例のない住民主体のワークショップの運営 3. グローバル展開:自治体外交や地域の製品の海外展開などによる日本の発信…アウトバウンド・インバウンド 戦略の策定と実行・コラボレーション(日中リーダー会議)、等 例)新潟県三条市における海外販路開拓を目指した各種支援 - ベトナムホーチミンでの市場調査、ホーチミン・成都での販路構築実施、等 例)群馬県沼田市における成都市への販路開拓 - 成都における市場調査や有力小売企業・政府有力者との関係構築、販路開拓に向けた計画策定の実施、等 |
| 安部 敏樹 | あべ としき | 一般社団法人リディラバ/株式会社Ridilover | <ul style="list-style-type: none"> ■社会課題・地域課題をテーマとしたスタディツアーを企画しあらたな市場を開拓。 ■被災地での教育旅行をとした復興支援(例:釜石での被災後初の100人規模での教育旅行など)。 ■安倍首相が座長を務める観光立国推進会議での「アクションプログラム2015」として政策化。 (11)国民の旅行振興に向けた意識醸成・環境整備”の項目において「若者に旅の意義や素晴らしさを伝える「若旅★授業」を地方で拡大するとともに、若者の関心が高い、エネルギーや地域医療など様々な社会テーマを扱ったツアー商品の造成を推進し、より多くの若者が旅に出るきっかけを創出する。【新規】という形で記載。 ■観光から移住定住・産業振興・事業承継・MICE誘致を一貫して実現(例えば林業のツアーを通して5人の事業承継・移住の実現など。これまで20人以上がツアーを通しての移住や2拠点居住を実現したと思われる)。 ■600人以上のボランティアマネジメントを通しての課題の洗い出し。 ■社会起業家の経営者向けカンファレンスR-SICを300人規模で3年連続開催。京都・つくばなどの地域開発に寄与。 ■東大の講義にて200人の学生に対し、ソーシャルビジネスのためのチームビルディングなど講義から30以上のプロジェクトを創出。講義をまとめた著作『いつかリーダーになる君たちへ』(日経BP)がAmazonで部門別1位を達成。 ■被災地の医療現場における鍼灸師などを含めた新たな医療チーム体制の構築と実施。 ■R-SICにおけるソーシャルビジネスのプログラム”CrossPoint”、観光庁研修、青森県研修、スタディツアーなどを通して100地域150社以上のインキュベーション支援。 ■述べ20校以上の教育旅行の実施。 ■スタディツアーなどの事業を通して扱うテーマは「農・林・水産業」「環境」「医療・介護・福祉」「貧困」「地域活性化」「公共事業」など200弱。 ■東証一部上場企業なども含め企業の幹部研修や人事研修としての地域課題・社会課題の現場での研修事例も10以上 ■アカデミックなアクティブラーニング、ファシリテーションの講義などを東京大学などの大学教員から各地の教育委員会や校長向けに実施 <p>【リディラバの事業に関連するURL】 [Travel The Problem:スタディツアー専門の旅行サービス] https://traveltheproblem.com/ [TRAPRO:社会問題の百科事典] http://www.trapro.jp/ [TRAPRO移住ロコミ:地域の気になるロコミが集まるサイト] https://iju.trapro.jp/ [「社会起業」の最先端を知る]招待制カンファレンス:R-SIC(アール・シック) http://ridilover.jp/R-SIC/ [リディラバ(HP)] http://ridilover.jp/</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|----------|---|--|
| 雨宮 洋司 | あめみや ようじ | みなとガイド塾 | ①富山新港を中心に付近の歴史あるみなとまちの現状と歴史の絵地図をそこに居住する市民とともに学んで、作成をし、散策、地域おこし、郷土学習等に役立てる取り組みをしている。 ②”みなとガイド塾”を立ち上げて、それらの絵地図を教材にして学ぶとともに、港背後地の企業・団体の訪問、北前船時代のみなとまちを歩いて歴史の痕跡を探しながら現状を知る、等を通して、この地への訪問者や家族などに説明(ガイド)出来るような学生・市民を育てる活動をしている。これはこれからの日本海側の新しいみなとまちづくりを考える契機にする配慮をしており、NPO法人水辺のまち新湊と組んで実施して継続性を意識している。 |
| 荒井 一洋 | あらい かずひろ | NPO法人大雪山自然学校 | 【現場の実践活動】自然体験活動の専門性を他分野に応用している。 ・自然体験×観光＝エコツーリズム:英語で少人数・長期滞在型のエコツアーを実施。旅行者の満足度を高め、地域への経済的効果を高め、ガイドや住人が続けられる観光に取り組んでいる。 ・自然体験×幼児教育＝森のようちえん:企業主導型保育事業を活用し定員12名の保育園を運営している。体験型幼児教育の手法を実践を通して蓄積している。 ・自然体験×発達障害＝ホースセラピー:ドサンコを活用したセラピー事業に取り組み始めた。現在試行錯誤中。 ・自然体験×環境保全＝利用者による公園管理:東川町大雪山国立公園保護協会からの委託事業として国立公園管理の一部を実施している。心理学・人間行動学をベースに、利用者が環境保全する仕組みを構築中。 ・人材育成＝日常的にプログラムが実施されている現場に合わせて、インターンシップやボランティア事業を実施しており年間延べ300人程度が参加している。 【持続可能な観光の普及】 ・持続可能な観光の国際基準GSTC公認トレーナーとして、サステナブルツーリズムの研修や国際認定取得に向けた伴走支援に取り組んでいる。実践で蓄積した知見を全国の方と共有し世界レベルの観光地域づくりに取り組んでいる。今一番必要なのは日本全国で一緒に取り組む仲間。 |
| 新井 信幸 | あらい のぶゆき | 東北工業大学工学部建築学科 ／特定非営利活動法人つながり デザインセンター・あすと長町 | 東日本大震災後、仙台市内を中心に各地の仮設住宅、災害公営住宅にて、孤立を防ぐコミュニティづくりと居場所づくりを展開してきました。あすと長町仮設住宅(仙台市)では、仮設住宅でコミュニティ形成、次のステップ(災害公営住宅)に向けたコミュニティ継承の支援を実施し、それらは概ね実現することができました。ステージが災害公営住宅に移行してから、塩竈市内の災害公営住宅などを中心に、居住者(自治)組織形成、集会所の居場所化等の支援を実施してきました。居住者組織形成については、担う役割を住宅管理に絞ったことで、ほぼ全世帯が参加する体制を構築することができました。孤立を防ぐ取り組みについては、集会所を外部に開いて、多様な団体が利用・活動することで、多様なつながりが生まれ、「みんなの居場所」となるよう支援を継続しています。清水沢東住宅(塩竈市)では、約15団体が入れ替わり立ち替りで、毎日のようにイベントが開催され、日中の高齢者や放課後の子どもたちの居場所となっています。また集会所の居場所化には、運営方法にも工夫が必要で、旧来からの自治会費で水光熱費を賄う方式だと利用頻度が高まることで自治会運営が逼迫していきます。そのため、利用する団体が支払う形の利用料金制を導入しました。それによって、利用が促進され、今年に入ってから新たに2団体(書道教室、俳句の会)が定期利用を始めています。 |
| 生重 幸恵 | いくしげ ゆきえ | 特定非営利活動法人 スクール・ アドバイス・ネットワーク | この法人は、「学校教育支援における地域活性化」を目的とする数少ない団体として、注目をされた活動を行なっている。出発時活動の中心は杉並区教育委員会との協働であり、杉並区とは現在も連携を持っている。また、平成15年からは、東京都内各区の教育委員会とも連携したり、さらには全国各地での「学校支援」「地域活性化」のプロジェクトに参画したりして、活動の範囲を広げている。一方、企業の教育支援活動の推進にも助力し、社員研修やフォーラムなどを通して、教育貢献の必要性和その方法などについてアドバイスし、企業を持っているノウハウを学校授業に繋げるためのプログラム作成なども手がけている。 |
| 池上 文雄 | いけがみ ふみお | 千葉大学 環境健康フィールド科 学センター | ・地域貢献支援事業の一環として、各地の自治体の市民向け薬草講座などで、市民参加型で身の回りの身近な薬草探索などを実践。 ・科学技術振興機構主催のサマー・サイエンスキャンプを開催して全国の高校生を対象に漢方と薬草の実践講座、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の高校生を対象に教育研究指導などを実践。 ・東日本大震災の復興と漢方薬資源植物の国産化推進の一環として、福島県、宮城県を中心に産官学連携の会津人参や当帰等の薬草栽培を通じた地域産業活性化の推進を支援。 ・「漢方と薬草」をキーワードとした「夏休み薬草教室」「地域力向上支援事業」などの効果的な協働や共創を生み出し、また、内発的な活動を支援するための情報発信などを実践。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|----------|----------------------------|--|
| 石山 純恵 | いしやま すみえ | (株) クリフ | 地方銀行や総合病院での管理職研修などを行っています。講義をして「良かった」だけの研修ではなく見える研修、数値化する研修を企画実施しています。福島県を取り巻く状況で国際機関との会議の議事録作成や翻訳等を行っています。自らの起業で女性の雇用を創出し女性の生きがい作りに寄与していると思っています。今後も女性の活躍、女性の創業を支援していきたいと思っています。平成26年5月に、ノルウエー大使館、仙台市、仙台男女共同参画センター主催の東北の復興を担う女性リーダーノルウエー視察研修に福島県代表として参加しました。 |
| 井上 拓磨 | いのうえ たくま | 株式会社はたらクリエイト | 経済的価値と社会的価値を両立する仕組みを構築しています。そのため公費ゼロで自立する仕組みづくりが得意です。現在は、人材不足に陥りやすい関東圏の企業に向けてリモートでサポートするリモートチームサービス「hatakuri(ハタクリ)」を核に、子育て中の女性の社会復帰支援の仕組みを作ってきました。3年間で自立し公費ゼロで100名を支援する取り組みとなりました。そのほかにも、コワーキングスペースで培ったマルチステークホルダーで課題を解決する取り組みを多く行っています。 <主な取り組み事例> ・空き店舗活用したコワーキングスペースを3カ所開設 ・上田市・商工会議所・産学官コーディネート組織と連携した創業支援 ・インターンを活用した学生の社会との接点作り ・子育て中の女性の社会復帰支援 ・移住定住に関する取り組み |
| 井原 満明 | いはら みつあき | 地域計画研究所(藤沢事務所) | ①農村集落の再生:ライフスタイルの価値観を変えるグリーンツーリズムと地域の資源を地域で生かすエコミュージアムの融合展開(岩手県内、他県)、農家民宿の支援(山形県)。②高齢社会の地域づくり:高齢者の特技・手仕事を活かしたマイスター制度の設立(宮崎県)、高齢者が中心となってワークショップを開催し、生きがいづくりと集落の再生に取組む。(山形県)。③ローカル線と地域再生:三セク鉄道と沿線集落の再生を目指す各駅を拠点とした駅市や駅カフェの開催、駅間と集落を結ぶフットバスづくり(秋田県)。④中心市街地活性化:中心商店街と周辺地域の農村部との連携を図り住民参加協働型第3セクター「まちづくり会社」を提案しその設立に関わる(岩手県)。⑤農村文明塾:農村における新たな価値の創造の取組みとして農村文明塾の運営に参加し域学連携などを実施、雪を生かした雪中酒の商品開発を行う(長野県)。⑥福祉版コンパクトシティ:高齢者の暮らしと生業の創造について講演し、その後、高齢者たちが耕作放棄地を活用しさつま芋を栽培し「焼酎」を試作しブランド化を図る(新潟県) |
| 今村 まゆみ | いまむら まゆみ | 観光まちづくりカウンセラー | ◆観光を切り口にした地域資源の発掘・地域ブランド化・プロモーション支援◆ 国内旅行雑誌「じゃらん」の編集経験をいかし、その土地ならではの魅力ある資源を発掘し、観光素材へと仕上げ、メディアなどに戦略的にPRすることを得意とする。消費者やメディア、トレンドを意識した「コンセプト」「ターゲット」「話題」になる観光開発にポイントを置き、地域ブランドの構築から、体験メニューの造成、PRにかかわるアドバイスを組織づくりに取組んでいる。 【取組事例】 ・愛知県渥美市商工会「渥美会づくし事業」 年間を通じて様々な種類の貝が獲れることを資源とし、飲食店と宿泊施設が「貝づくしの店」として連携。昔はハレの日に家庭で作られていた「あさりの押し寿司」を復活させ、商品開発に取組み、イベントで販売。現在は9店舗で販売するに至る。 ・東京都青梅市御岳山「お犬様連れ歓迎プロジェクト」 標高929mの御岳山は東京のオアシス。山頂にある武蔵御嶽神社は昔から「お犬様」が祭られ、境内を犬同伴で訪れることができる。この特徴を活かし、都内近郊に住む30~40代のペット連れをターゲットにペットのお祓い、ペット用の守りを制作し、ケーブルカー内にもペット連れゾーンを用意。それらがSNSで「ペットの聖地」と話題になり、認知度向上、集客アップにつながった。 ◆人材育成◆ 地域貢献度の高いキーパーソンの講演や個人ワーク、グループディスカッションを通し、受講者自身の「問題意識」や「自分らしさ」への内省を促し、地域貢献度の高い人材を目指すことを目的とした研修を企画・実施している。 【取組事例】「地域キーパーソン養成研修」「信頼関係の醸成に役立つ 傾聴力向上セミナー」(経済産業省、北海道・近畿・中部・中国・四国・九州経済産業局にて実施。対象は経済産業省一般職および管内の行政職員)など。 ※その他、住民向けの「観光ボランティア養成講座」なども企画・実施している。 |
| 臼井 純子 | うすい じゅんこ | オフィス・ウスイ/NPO法人日本風景街道コミュニティ | ・地域活性化にかかわるさまざまな事業について、経営視点から事業の構築、マーケティング、プロモーション、継続的な運営手法、経営全般についてアドバイスをおこなっています。 ・地域の資源「ひと、もの、金、情報」の有効な活用方法、人材発掘と育成など、その地域の特性を活かした地域活性化策(産業振興、観光、移住・交流など)を、地域の住民とともに、地域に根付くやり方で実施していくことを何より大切にして、取り組んでいます。 ・地域の事業者の「家業」をどう「企業」まで底上げしていくか、経営のイロハについてわかりやすく指導・育成を実施しています。 ・地域リーダー、女性起業家の育成・指導・助言を行っています。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|------------------------------------|--|
| 内海 芳宏 | うつみ よしひろ | 日本真珠輸出組合 | 神戸旧居留地における芸術文化の発表(音楽、美術等)による集客(特にインバウンド来日客にむけた地域特性を活かしたものの)での成功や、神戸マラソン等の地域特性を活かしたアドバイスなど、日本産海水産真珠や、食品の海外現地におけるブランディングでの成功からの経験・手法を講演、教育現場等でお伝えしております。 |
| 越護 啓子 | えちご けいこ | 杉野服飾大学 | 南会津町「地域競争ビジネス支援事業」伊藤園贈答用ミニトマトジュース開発・三宅島「国境離島交付金事業」青汁開発 他・八丈島、青ヶ島、知夫里島、佐渡島、種子島他、離島交付金受託者他事業支援多数・南信州果実フードロス凍結新商品事業化支援・文科省全国生涯学習フェスティバル「まなびピアふくしま」メイン事業県民巻き込み映画製作企画開発・洞爺湖サミット記念事業映像企画制作・厚生労働省宮城県「新規卒学卒未就職者向け就労支援事業」人材育成プログラム開発制作実施・厚生労働省札幌市「ジョブスタート」プログラム開発制作実施・日本ハム×福島復興支援事業・熊本阿蘇高菜漬け欧州輸出マーケティング事業(経産省)・熊本県八代市「菜種」「ごま油」ブランディング商品開発販売促進(ザ・ワンダー500選出・経産省)・岩手県、宮城県、福島県事業サポート復興庁専門家支援 その他 |
| 榎田 竜路 | えのきだ りゅうじ | 合同会社アースボイスプロジェクト | <p>◇人材育成◇ 全国各地(東京都墨田区、同八王子市、多摩地域、秋田県、島根県、愛媛県松山市、茨城県行方市、鹿児島県阿久根市、同薩摩川内市、佐賀県基山町、奈良県吉野町、同川上村、中小機構、九州経済産業局、大阪市、兵庫県市川町、他)で認知開発力®育成講座を開き、現在までに1200名余の人材を育て上げている。近年は高校生の育成にも注力しており、徳島県立徳島商業高校や鹿児島県立鶴翔高校、鹿児島県立川内商工高校、沖縄県立沖縄水産高校、島根県立東部高等技術校、岡山県立津山東高校、奈良県立吉野高校など全国の高校生を指導している。数年にわたり指導した地域では、高校生達の地元企業への関心が高まり、地元での就職率が上がるなどの効果が出ている。</p> <p>地域活性化において高校生の存在は欠かせないものであるという考えから、現在所属しているオリンピック・パラリンピック組織委員会「経済・テクノロジー」専門委員会では、地域活性化の手段として高校生の認知開発力向上を提案している。 また、同委員として、ホストタウン事業にも関わり、2017年度～18年度にはホストタウンの課題である、市民のホストタウン事業への認知度の向上を目指し、中学生を地域とオリンピック選手とのコネクター(つなぎ役)の役割を担ってもらうために認知開発®力育成の実績と技法を活用し、ポスター制作ワークショップを提案、岩手県野田村(野田中学校)、岩手県雫石町(18年度、中学生、高校生)、静岡県静岡市(安倍川中学校)、福島県飯館村(飯館中学校)を指導し、ポスター制作を実施した。</p> <p>◇コンテンツ制作◇ 地域情報のグローバルな展開を支えるメディア手法「序破急モデル®」や、地域や企業の情報を資産化することの出来る人材育成手法「認知開発手法®」を生み出し、企業の連携促進やITを活用した情報発信システム構築と組み合わせ、「情報運用手法」として全国に展開している。 企業や地域に「物語」を見出し、それをコンテンツ化し、グローバルに展開させていく手法を用いて、制作・監修。これまで手がけた中小企業や地域の映像は現在までに2000本を越えている。</p> <p>◇総合情報戦略◇ 震災に生かされた情報運用 ・東日本大震災(2011年～) 2011年3月11日の東日本大震災を受け、マスメディアでは取り上げられない、被災地の情報を運用し、BSトゥエルビの番組「未来への教科書」として配信。被災地の児童生徒を対象とした、出前授業を実施(5年間で28校)するなど、被災地の中長期的な支援を行ってきた。そのアーカイブは5年間で117本、取材時間は10000時間以上に及ぶ。</p> <p>その他、インバウンドについては、熊本地震や北海道地震後のインバウンド復興を目的とし、ミスインターナショナルや、中国のSNSでの人気番組などのインフルエンサーを招聘し、旅動画を制作配信、復興に貢献した。特に中国富裕層向けの施策について卓越した実績を有する。</p> |
| 岡田 昭人 | おかだ あきと | 早稲田大学都市・地域研究所／一般社団法人コミュニティネットワーク協会 | <p>埼玉県上尾市の密集住宅地再生事業においては連鎖型の共同建替えの4プロジェクトに関わり、その後墨田区向島地区の密集住宅市街地でのまちづくり活動や鳥取市中心市街地での老朽化した防火建築帯のコンバージョン・リノベーションに向けた修復改善型の整備計画策定に携わっている。 近年は福祉、医療関係者と連携しながら、高齢者の住居・生活改善支援及びLLPやLLCを立ち上げ、住まいづくりの主体づくりの支援をしている。また社団法人コミュニティネットワーク協会が運営するコミュニティファンド研究会で、新しい市民ファンドの仕組みに向けて調査・研究、提案を行っている。 花巻市東和町では、商店主や高齢居住者が地域で支え合いながら暮らすための共同店舗や住まいづくりを様々な制度を活用した共同建替え事業支援やエリアマネジメントを志向するまちづくり会社を支援しながら、空き地空き家を活用した美術館や自律的財源を確保するためのまちづくりファンドの組成など地域再生に向けての実践活動を行っている。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|----------|------------------------------|---|
| 小幡 和輝 | おばた かずき | NagomiShareFund / 地方創生会議 | 地方創生会議は47都道府県すべてから起業家・公務員・政治家・クリエイター・学生などが参加する地方創生のプラットフォーム。全国のローカルプレイヤーがつながり、事例共有や共同プロジェクトなどが生まれ、その取り組みを支援することで地域の活性化に繋げる。また、「NagomiShareFund」は株式による出資ではなる売上のレベニューシェアで回収するモデルを採用。これにより、既存のファンドが投資しづらい、地域の名産品や伝統工芸品などへの支援を実現。さらに、クラウドファンディングを活用した起業支援を全国各地で行っている。 |
| 鍵屋 一 | かぎや はじめ | 跡見学園女子大学 / (一社) 福祉防災コミュニティ協会 | <ul style="list-style-type: none"> 自治体職員のとときに、防災基本条例を起草。地域防災の基本書を目指した「地域防災力強化宣言」を出版。 防災関係の講演、自治体職員向け研修など多数。特に、全国各地で災害時要援護者支援とまちづくりの連携について話す機会が多い。 (一社) 福祉防災コミュニティ協会代表理事として、福祉施設の福祉防災計画作成、コーチ養成、災害時の支援活動などに取り組む。他に、学校防災、マンション防災活動に力を入れている。 内閣府地区防災計画アドバイザー(横須賀市、荒川区、高知市、吹田市、札幌市、原市)、内閣府主催の防災こくたい、防災とボランティアのつどい、などでコーディネータを務める。 |
| 梶川 貴子 | かじかわ たかこ | 株式会社 ウェルネスアリーナ | 地域の特性を活かした、産業振興および活性化のサポート。マーケティング戦略の立案および実行など。 |
| 加藤 せい子 | かとう せいこ | NPO法人吉備野工房ちみち/千道株式会社 | <p>「一人ひとりの夢が実現し希望と笑顔が生まれ幸せの和が広がる」を目的を達成するために「一人一品」の考え方を元に、一人ひとりの夢を実現させる場として「みちくさ小道」の運営を行っている。※一人一品とは、その人の一番の輝き多様なステーキフォルダーの集合体に特徴である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★みちくさ小道から派生して出来た取組 中山間の地域資源発掘 里山×子育て体験 商品の販路開拓 地域文化の伝承 人財育成(インターンシップ、研修事業) 仕組みづくり(小・中・高校生をつなぐ) 健康増進 防災・見守り 交流観光体験プログラム ★みちくさ小道の仲間たち 湯原っしい(真庭市)・大分みちくさ小道(大分市)・伊達ルネッサンス(亶理町、山元町、新地町)・石巻に恋しちゃった(石巻市)・Re:us world(気仙沼市唐桑)・さんりくさんぼ(宮城県気仙沼市本吉地域)・かんぱく(香川県観音寺市)・เทศกาลเมืองสุรินทร์(タイ国スリン県) ★JICA研修プログラムとしても活用(アジア太平洋大学×みちくさ小道) <p>7年間で45か国(アジア、アフリカ、アンデス地域)400名近い行政官、実施関係者、生産者が地域開発に必要なコミュニティ・キャパシティ開発を学ぶ。</p> |
| 金井 藤雄 | かない ふじお | 生薬コンサルティング/学校法人明治薬科大学 | 1、ベトナムにおける桂皮の栽培について事業化に成功し村全体の活性化につなげた。2、ロシアのアルタイ州などにおいて甘草の野生収穫および栽培・集荷を行い地域の活性化へつなげた。3、ロシアのイルクーツク州において麝香鹿の育成と集荷、狩猟許可に基づき麝香確保、麝香牧場に放牧・育成し麝香を集荷するビジネスモデルの構築を実施した。4、ブラジルにおける牛糞・吐根などの生薬の集荷、日本薬局方による品質管理の指導等を行っている。5、三重県における薬用植物栽培事業について専門家として委嘱を受けて活動している。6、各市町村からの問い合わせをいただき丁寧に薬用植物栽培の相談を受けております。7、GMPコンサルタントとして生薬管理責任者の教育訓練、製薬企業の手順書・基準書作成、生薬鑑定・生産実務(鏡見等)、定量など分析実務、各種バリデーション実務を指導している。8、医薬品の承認申請業務のアドバイスを行っている。 |
| 河合 克仁 | かわい かつひと | 株式会社アクティビスタ / 国立大学法人筑波大学 | <ul style="list-style-type: none"> 各地域の魅力の再定義×その地域だからこそできるソフト/ハードの整理とPR その地域の企業を巻き込んだU/Tターン採用と若者育成支援 <p>実績(2015年7月～):</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地方の中小企業の魅力の言語化・見える化を行ったUターン/Tターン採用支援(北海道、青森、福島、長野、愛知、千葉等) ■産学連携の人材育成と人材採用支援 筑波大学にて地元企業への就業体験を含んだキャリアデザイン教育の授業を実施 ■10年後の未来を描くビジョン策定支援 中小ベンチャー企業の理念・ビジョン策定 ■大企業×ベンチャー企業×異業種×異年齢のカンファレンスの開催 参加企業数述べ200社以上、実施回数10回、参加企業の売上総額3兆円以上、従業員総数3万人以上(直近1年間)の経営者会議開催 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|--|--|
| 川崎 克寛 | かわさき かつひろ | 徳島大学 | 2010年より内閣府地域社会雇用創造事業(ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスのインターンシップ事業)のメンターとして関わり、四国の学生と地域企業とのマッチング・コーディネート活動に携わる。また、四国経済産業局主催の企業向けセミナーにおいて、コーディネーターとして参加。2011年3月から、東北での支援活動「つなプロ」に参画し、エリアマネージャーとして、現地にて地域住民の生活サポート、ボランティアスタッフのコーディネート活動のほか、同年6月より、ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスの復興支援インターンシップ事業である、岩手県陸前高田市で行われたT-ACT事業にも参画し、現地ディレクターとして、50名を超える学生を受け入れ、地域再生プロジェクトのコーディネート活動を行っている。2014年、ネパールの地震復興支援活動を行う。2016年2月より徳島大学特別准教授・COC+推進コーディネーターとして、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC+事業)」に携わる。 |
| 岸川 政之 | きしかわ まさゆき | 百五銀行/皇學館大学/(一社)未来の大人応援プロジェクト | 三重県多気町にある相可高等学校食物調理科調理クラブが運営する高校生レストラン「まごの店」やその先輩が運営する惣菜とお弁当の店、(株)相可フードネット「せんぱいの店」など、コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り組む。これらの取り組みは、国土交通省ふるさと手づくり賞大賞、総務大臣優秀賞など多くの賞を受賞し、2011年5月からは「高校生レストラン」と題しテレビドラマ化もされ話題を呼んでいる。 また、高校生などの若者(未来の大人)たちと地域ビジネス創出事業(Social Business Project、略称:SBP)にも取り組んでいる。SBPは、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していこうというもの。具体的には、自分たちのまちの地域資源(ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等)と交流し、見直し、活用して「まちづくり」や「ビジネス」を提案していく。そして、その取り組みを地域で応援し支えていこうというもの。高校生レストラン「まごの店」等を先進事例に、2013年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPを立ち上げ、その後このような地域に根ざした取組が全国に広がっている。そして、SBP活動に取り組む高校生が集い研鑽する「全国高校生交流フェア」は、2017年から文部科学省の共催事業となっている。 現在は地方の活性化をテーマに、全国各地で「まちづくり」、「商品開発」、「生き方・考え方のヒント」などをテーマにした講演やワークショップも多数開催するとともに、市町村、NPOなどのアドバイザーとしても活躍している。 |
| 北尾 洋二 | きたお ようじ | 株式会社サメディアジョン・リージョナル/大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科 | 「地域のために、地域を越えて」及び「新卒採用で地方創生」をミッションとした、新しいタイプの「創職」サポート・「ジョブメーカー」として日々活動しています。メディアのアレンジメントから出版・広告代理・編集プロダクション、まちづくりコーディネート・社会調査、ワークライフバランス、男女共同参画推進、障害者雇用支援、新卒採用支援に至るまで、地域活性化から企業活性化までをカバーします。「ご縁と感謝の経営」を軸にしなから、「ひとづくり まちづくり くにつくり」をモットーに活動を展開しています。 ● 地域活性化と発展は「雇用・就職」から/学生、企業、地域社会の立場をしっかりと理解し、お互いの納得度を高める就職支援と企業の採用支援(採用ノウハウの提供、経営指導など)、そして地域コミュニティとしての場づくりを行なっています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、島根県庁、山口県庁、大阪府大阪市、岡山県岡山市、山口県山口市・下関市・岩国市、島根県益田市など) ● 地域資源の掘り起こしを「若者目線」で/アクティブラーニング(サービスマーケティング)の手法を用いたフィールドワークで、地域の課題を若者目線で改善提案。「連携」という言葉の枠を越えた、地域づくりを展開しています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、日本環境協会「いきものみつけファーム」及び「こどもエコクラブ」、各自自治体「まちづくり講演会」、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS/facebook、twitter、Instagramなど)を活用した情報発信事業及びイベント企画、SNSに関する利用実態調査、地域の魅力度調査、大分県竹田市・豊後高田市・姫島村、山口県山口市・下関市・宇部市、島根県江津市、高知県宿毛市、宮崎県串間市、山口銀行・山口フィナンシャルグループなど) ● 地域の歴史をテーマとした研究活動、魅力発見及び研修事業展開/歴史街道・萩往還散策マップ実行委員会、夢街道ルネサンス、知覧研修、萩・松下村塾をテーマとした現地調査活動、月刊松下村塾・月刊高杉晋作・龍馬と長州等の歴史ムック発刊とプロモーション、日本風景街道などの調査研究及び産学連携のフィールドワークを実施しています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、鹿児島県南九州市、山口県周南市・萩市・山口市・防府市・下関市、宮崎県串間市など) |
| 北野 尚人 | きたの ひさと | 広島経済大学 メディアビジネス学部 | 「地域絆と東京鮮度」をモットーに、マーケティングやコミュニケーションの知識・ノウハウを活かし、地方都市ならではの情報や時間面での真の豊かさの実現支援に向けて活動中。 ・今街中で起こっていることが分かれば、すぐに駆けつけられるサイズのコンパクトシティだからこそできること、ワークライフバランスの良さをどう生かすかを模索中。 ・博報堂のブランディング・ノウハウを活用した「地ブランド構築」支援活動も展開中。 特に、最近では、農産物や水産物のブランド化、地方都市のブランド化、地方ならではの「食」のブランド化、等に関してもチャレンジ中。 ・「瀬戸内海」と「中国山地」「山陰地域」の魅力の棚卸しを、辛口の他所者視点に立って推進中。 ・大学へ移ってからは、マーケティング、コミュニケーション、メディア、広告、広報、ブランディング等を研究。 ・学生に対しては、従来の常識に捉われない柔軟な発想で、物事を見つめ考えることを指導。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|--------------------------|--|
| 衣笠 愛之 | きぬがさ よしゆき | (有)夢前夢工房 (株)兵庫大地の会 | <p>平成6年 ・農業規模拡大を決意する(専業農家へ)</p> <p>7年 ・経営改善計画認定取得する(認定農業者)・無農薬栽培本格的にはじめる</p> <p>9年 ・生きがい農園を主催する</p> <p>11年・農業生産法人設立 ・夢そば作付け開始 ・小学校農業体験に関わる</p> <p>12年・青空市場「夢」設立 ・夢そば推進協議会を結成する</p> <p>15年・特定農業生産法人認定される ・夢そば乾麺完成 ・ひょうご安心ブランド取得(無農薬認定)</p> <p>17年・新規就農研修施設「夢工房」を設立する</p> <p>18年・環境創造型農業兵庫県モデル地区に認定される(10ha)</p> <p>20年・食育アドバイザー指導を始める ・第1回たんぼアートを開催 ・地元スーパーとの連携開始</p> <p>21年・姫路市夢さき夢のさとの指定管理者になる(夢やかた)・農家レストラン「夢工房」オープン</p> <p>22年・産官学連携商品開発への取り組み、米粉食品指導員免許取得((財)日本穀物検定協会)</p> <p>23年・6次化法認定(農林水産省)、食と地域の交流推進事業認定(平成23～24年)</p> <p>24年～25年・イチゴハウス(37a)、直売所「夢街道farm67」開設</p> |
| 木下 斉 | きのした ひとし | 一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス | <p>“地域の中心的なチームを組織して新たな事業を創り、その事業経営を通じて地域の抱える経済的・社会的課題を解決するのが、私のスタンスです。</p> <p>・1998年、早稲田商店会における環境を切り口とした商店街活性化に参画。「エコステーション」の運営を通じて、1999年より全国リサイクル商店街サミットを開催(現在までに全国で13回開催)。さらにネットを活用した情報共有を行い、2000年度新語流行語大賞「IT革命」受賞。</p> <p>・2008年には熊本市内における不動産価値の向上を目指し、熊本城東マネジメント株式会社を設立。不動産・店舗経営にかかる契約を一本化することでコスト削減と業務品質改善、まちづくり基金の創出する、エリア・ファンシリティ・マネジメント事業を立ち上げる。現在、北海道から九州まで全国各地で同様の事業を立ち上げている。</p> <p>・2009年には全国各地の事業型まち会社とそれを共同で推進する民間企業や専門家によるアライアンス団体、一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンスを設立。現在11都市のまち会社が加盟し、共同で事業開発を推進している。</p> <p>・2011年からは、エリア・イノベーション・アライアンスにおいて、新たな事業開発プログラムである「エリア・イノベーターズ・ブートキャンプ」を定期開催。全国から参加者が集まり、事業開発に取り組み、成果を挙げている。さらに、インターネットを活用した事業プログラム販売などのプラットフォーム開発にも着手、まち会社が物理的な制約を越えられるよう、オンラインでの事業開発・経営推進を図っている。</p> <p>・2013年には公民連携事業を推進した実績から、地域活性化伝道師を務めるアフターヌーンソサエティの清水氏、CRA合同会社の岡崎氏と共に一般社団法人公民連携事業機構を設立し理事を務める。同社では2015年より東北工大と連携し、公民連携プロフェッショナルスクールを開校し、自治体、民間横断での全国的な公民連携事業家の育成に当たり、既に全国で30以上の公民連携によるまちづくり事業の立ち上げにつなげている。さらに今年からは都市経営プロフェッショナル・スクールへと進化させ、幅広い都市経営課題解決に対応する。インターネットと実地研修を組み合わせ、現場をもつ人々が互いに他の地域をもサポートできる体制をつくりあげることで、自立した地域づくりをサポートする。</p> |
| 久野 美和子 | くの みわこ | 電気通信大学 | <p>グローバル経済・産業・社会の中で、日本や地域、個別の企業が生き残り、勝ち残っていくためには、大学や研究機関の優れた研究・技術成果を社会的価値に繋げていくことが極めて重要である。また、その方法としては、単独ではなく、多様な知識をもった人材や組織との連携・融合が不可欠の時代となっている。このため、プロデューサーの経験・ノウハウを活かし、1. 埼玉・千葉・茨城・群馬地域～東京(広域)の各大学や研究機関、支援機関と連携して、産学による共同研究開発～新事業創出のしくみづくり、個別支援を行っている。2. 特に超高齢化社会に突入している現在、ライフイノベーション(健康・医療・福祉・介護、食・農等)分野の共同研究～新商品開発・新事業創出が急務であり、重点的な取り組みを行っている。3. 日本の科学・技術の中心である「つくば地域」で、「科学・技術産業イニシアティブ」(グローバル・オープンイノベーション・プラットフォームづくりを目指す、科学・技術、産業分野の有志の会)を立ち上げ、様々な分野の専門家によるセミナーやプロジェクトメイキング活動等を実施中。4. NPO法人「イノベーション・ネットワーク」を有志で立ち上げ、若い・科学人材育成、「健康・食」の拠点作り等に注力。5. 地域活性化伝道師としても、1. ～3. に関わり、地域や個別企業からの相談に応じてプロデュース活動を行っている。</p> |
| 小島 大 | こじま だい | ささつな自治体協議会 | <p>全国各地の40数人の首長陣が集う、ささつな(ささえる・つながる)自治体協議会の議長・事務局としまして、会員自治体を中心とした住民の皆様の生活に貢献・寄与する事を目的とし、都内の大学の教授陣や自治体職員と連携して、首長陣を中心とした交流促進のための意見交換会、勉強会、懇親会等の開催などにより、地域を超えた複数の自治体間で締結しました防災協定を主な活動として自治体支援活動に取り組んでおります。</p> <p>同時に、会員自治体の道の駅等の商業施設を連携させること等により、スケールメリットを活用させることで、地域産業の振興、特産品の販売等による地域経済の活性化活動に寄与して参りたいと思います。また地元大学の教授陣と研究会を開催しての農業・教育分野を中心としたまちづくり推進支援活動と共に、ささつな自治体協議会と連携しております大手企業陣の集い、ささつなCSR協議会の企業メンバーと協働することで、ささつな自治体協議会の会員自治体様を中心に多岐な分野において自治体支援事業を行って参りたいと思います。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|-------------------------------|--|
| 後藤 健市 | ごとう けんいち | スノーピーク地方創生コンサルティング株式会社 | 「場所文化」をキーワードに具体的な場の設定に関わり、地元の十勝・帯広では、北の屋台(2001)、スノーフィールドカフェ(2002)、東京では、場所文化フォーラム(2002)、まちの…(2007)、にっぽんの…(2010)の立ち上げと運営に携わってきた。さらに、まちづくりのさまざまなアイデア実現のために会社・団体を複数設立し、場所の価値を生かした実践活動を行い、全国各地での講演や、地域の元気人材を巻き込んだ活性化事業に携わりながら、コミュニティビジネスやソーシャルビジネス創出の強化に取り組んでいる。また、2010年から海外での活動を開始し、シンガポール、ハワイ、そして極東ロシアなど、アジア&パシフィックエリアの地域との連携を視野に入れた事業に取り組んでいる。地域活性化事業以外として、障害理解とコンプレックスの自覚のためのプログラムを行っており、また、ポケットサイズのカラー点字器を開発し、「名刺に点字を入れる」ボランティア運動も展開している。(カラー点字プレートは98年度のグッドデザイン賞中小企業庁長官特別賞を受賞。) |
| 小林 秀司 | こばやし ひでし | 株式会社シェアードバリュー・コーポレーション | 全国都道府県に出かけて人を大切にする「いい会社」の視察や調査、発掘をしています。これまで企業訪問した数は632回(2018年1月25日現在)。年間70社近くの訪問活動を続けています。企業調査・発掘、研究成果啓蒙講演、企業での研修・コンサルティングが主業務。また、経済産業局や自治体、中小企業家同友会など行政や経営者団体からご依頼を受けて講演セミナーを開催しています。 【講演・シンポジウム・セミナー活動実践例】「人を大切にする経営」日本青年会議所愛知ブロック協議会シンポジウム、「真の企業経営とは?地域に根ざし、愛される経営」四国経済産業局・「元気な社員がいる会社のつくり方 労使で築き活きた職場」栃木県小山労政事務所・「障がい者雇用が切り開く新たなフロンティア」高知県中小企業家同友会・「栃木でいちばん大切にしたい会社を目指そう!」栃木県中小企業家同友会・「島根県幹部候補向けマネジメントセミナー」島根県商工労働部など |
| 斉藤 俊幸 | さいとう としゆき | イング総合計画株式会社 | 2003年関東学院大学まちなか研究室追浜こみゆに亭開設に参加(2003年)、有明高専現代GP事業推進(文部科学省2005年)、全国水産高校生徒研究発表大会四国大会で高知海洋高校うめプロジェクト優勝支援(2009年)、国際教養大学生による高校生向け英語合宿開催(秋田県由利本荘市、総務省地域力創造アドバイザー事業2010年)、千葉県立松尾高校スーパーグローバルハイスクール「地域から考えるグローバル・エイジング研究」(文部科学省2015年)、大阪府立能勢高校スーパーグローバルハイスクール「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」(文部科学省2015年)、地域活性化センター土日集中セミナー「魅力化による高校の生き残り」と地域活性化」主任講師 |
| 澤田 廉路 | さわだ としみち | (一社)鳥取県建築士会/樹地域資源活用研究所 | 【地域衰退を再生させた主な取組実績】 ■1. 地方中心市街地の再生実績 ・境港市、水木しげるロードの調査し、理論的にかつ情熱的に支援活動等を実施 ・倉吉市玉川白壁土蔵群を中心とする倉吉の街並み整備活動と活性化の実施 ・鳥取市鹿野町のまちなみ整備活動の推進(いんしゅう鹿野まちづくり協議会と一緒に「鹿野まち普請の作法」等も作成) ■2. 中山間地域の再生実績 ・鳥取県智頭町で、智頭杉「日本の家」等を手掛け、智頭町活性化プロジェクト集団に所属し、日本0/1(ゼロ分のイチ)運動の活動支援、四面会議システム等の活性化手法に携わる ・いなばのジビエ推進協議会を全国に先駆けて立ち上げて、中山間地域の獣害対策と厄介者を活用した地域振興の支援を実施 ■3. 地域を活性化させる研修教育 ・行政、大学(教員・学生)、住民、NPO関係者等との課題解決型研修を行ってきた様々な異なる主体の人々を結びつけ一緒にグループワークを行なうことで課題解決に向かう手法を学ぶ研修を実施 |
| 志村 尚一 | しむら しょういち | 有限会社ウィルビー/株式会社源喜舎/劇団ぜんとうようくらぶ | 「一人一人のキラめきが輝く未来をつくりだす」をモットーに、資源の発掘と活用の仕方、住民一人一人が人材(役に立つ人)となれるような人材育成を、地域に密着して指導・アドバイスをを行っている。これまで指導した地域の方々からは、「自分達が気づいてなかった地域の可能性に気づかされ、実践方法も具体的にアドバイスしてくれるので、確実に成果が上がる」との声をいただいている。 現在、岩手県西和賀町の産業公社・湯田牛乳公社の相談役として就任し9年目、令和元年より花巻市東和町第三セクターのコンサルタントも務めている。人材育成と、所得と雇用の確保を目的に、6次産業と相乗効果を生み出す協働という手段を用いながら、地元の資源を生かした産業振興を推し進めている。 平成23年から、三陸の震災被災地で地域コミュニティ再生・復興のための支援活動(延650回)を行っている。そのほかにも、全国各地で「6次産業化」「農林水産業」「教育」「福祉」「人材育成」など幅広いテーマで、講演・研修を行っている。 また、自身が主宰する劇団『ぜんとうようくらぶ』は、「介護保険」などをはじめとする様々な課題を題材にした演劇を全国各地で多数上演。他にも、「市民憲章運動推進全国大会」「全国農業青年交換大会」「農山漁村女性の日記念の集い」などで、記念講演や演劇公演を行う。 平成29年からは、行政や地域の依頼を受けて、「共生型地域コミュニティ」や「地域包括ケアシステム」の構築につながる住民の意識改革・行動改革を目的とした講演・研修も行う。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|------------------|--|
| 新海 洋子 | しんかい ようこ | 一般社団法人SDGsコミュニティ | SDGsの達成のに向けての、セミナー企画・講師紹介、教員を対象にしたESD研修、主に中小企業を対象にしたコンサルティング等。 企業を対象にしたファシリテーション研修、市民を対象にした参加型対話型学習研修・イン タープリテーション研修、協働による地域の課題解決のためのプロジェクト企画・運営・コーディネート、高校生を対象にした環境学習プログラムづくり・実施支援、大学生を対象にした企業との協働による提案づくり支援等。 |
| 鈴木 邦治 | すずき くにはる | 一般社団法人 頑張る地域支援し隊 | ・地域イノベーション創出による地域活性化及び人材育成、まちづくり ・自治体の広域連携による情報通信を用いた教育、介護、農業等の推進 ・新エネルギーによる新産業の創出 ・地域資源を活用した6次産業の開拓 ・防災、減災を踏まえたまちづくり(スマートコミュニティ) ・道の駅やインキュベート施設などの活性化 ・企業誘致・公募事業による実証実験や研究ほか |
| 関口 昌和 | せきぐち まさかず | 一般財団法人どんぐり財団 | 低コスト・低維持管理のグラウンド芝生化を各地で実践し、芝生化をすることで、地域コミュニティの創出を図っている。また、パラアスリートの活動の場所に芝生化したグラウンドを提供することで、障がい者との距離を縮め、地域全体で障がい者支援を図ってきた。 |
| 早田 吉伸 | そうだ よしのぶ | 県立広島大学 | ・「システムデザイン」「情報アーキテクティング」の考え方をベースに、様々な社会課題を解決するためのコンセプトワーク及びその実現のための事業プロデュースを多様なフィールドを通じて実践しています。 ・中長期的なランドデザインを描くことから、現場における「何をやらせたいかわからない」という状況の打破まで、マクロ・ミクロの課題を各ステークホルダーの方々と一緒に考え、試行し、解決に導くことをモットーにしています。 ・特にIT(情報技術)の領域においては、「利活用」「公共サービス」の視点からコンサルティングを実施し、地域活性化に向けた課題解決につなげていきます。 |
| 高津 定弘 | たかつ さだひろ | 高千穂大学 | 国土計画、経済計画、地域開発、地域政策、経済政策など |
| 高橋 和勸 | たかはし かずゆき | NPO法人 ワップフィルム | <p><企画／コンサルティング 事例></p> <p>■まちづくり 経産省「コンテンツ制作を通じたまちづくり支援事業」 ・街のチカラ 映像のチカラ ～内子で見つけた魅力が映像に～</p> <p>■観光政策 特別区協議会 「観光政策」</p> <p>・～映像を活かした観光振興～街を見せるから『魅せる』に～</p> <p>■産業振興 静岡ものづくり未来応援団事務局(静岡新聞グループ)「ものづくり連携開発」 ・ものづくりワークショップ</p> <p>■人財育成 広島県「創業意識啓発事業」 ・～自分たちで創る自分たちの未来～ 中小企業大学「創業支援事業」 ・未来に向けて一歩を踏み出すために必要なこと映画コンテンツを活用した、行政・企業・大学を対象とした研修、講義を行う。</p> <p><研修・講演事例></p> <p>■組織活性 インノベーション創出 ■人財育成 コミュニケーション・チームビルディング・キャリア開発 ■働き方改革 ■メンタルヘルスケア ■事業開発 商品・サービス企画開発 ■地域活性化</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|----------|--|--|
| 高橋 聡 | たかはし さとる | カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社 公共サービス企画カンパニー | 図書館を主軸とした、地域活性の核となる公共施設の企画開発・空間設計・運営を行っています。 年中無休・夜9時まで開館、書店やカフェの併設など民間事業と連携した公共施設を実現し、人口5万人の武雄市で、同図書館は1年間で92万人の来館者を迎えました。これは、リニューアル以前と比較すると360%の来館者数です。 知の拠点であると同時に賑わいを創出する公共施設として、まちのコミュニティとしての役割も担い、その町の方々によるイベントやワークショップも主催します。子どもからお年寄りまで多様な人が混ざり合う、地域活性化の起点となる「場」や「空間」づくりを展開しています。 全国では神奈川県海老名市、宮城県多賀城市、山口県周南市において図書館運営。岡山県高梁市で図書館運営に加え、観光案内業務を企画・運営しています。 宮崎県延岡市では市民活動や待合を主とした市民の為の公共施設「エンクロス」を運営。 |
| 竹内 珠己 | たけうち たまみ | みなとオアシスもんべつ運営協議会 | 平成12年より東京直行便搭乗推進の為、促進ツアー等を企画、催行が可能な二種免許の旅行会社を設立。エージェントと紋別-東京ビジネス便を策定、実現に携わる。 平成21年よりみなとまちの地域振興事業に取り組むため、みなと・まちづくり女性ネットワーク・オホーツク会員有志で、株式会社を設立(榊グローバル・ポート・ダイニング山桜桃)。街中のにぎわいを取り戻し地域の魅力確立を考え、地場の食材を提供しながら地域の触れ合い空間を創出。 平成26年より、みなとオアシスもんべつ運営協議会代表として、港から地域の活性化を目指し、海洋コンサート、流氷まつりイルミネーション点灯式など、みなとの資産を活かしたイベントを開催。 平成30年「みなとオアシスSea級グルメ全国大会inもんべつ」の開催に向け市民団体への協力要請、広報宣伝活動を実施。「ほたて味噌焼きうどん」を出店、グランプリを受賞し紋別の知名度向上に貢献。 令和元年、クルーズ船寄港提案書及び北海道紋別市のほか西紋別圏域を含めた施設紹介誌を英語・中国語の2カ国版で作成。 |
| 竹内 よし子 | たけうち よしこ | 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク | ①アフリカ・モザンビーク支援関連:松山市や小学校等と協働し、放置自転車をモザンビークに送り、銃を回収するプロジェクトを支援。放置自転車対策からまちづくり支援、学校教育支援から地域ぐるみの取組みへと発展。現在は、持続可能な社会づくりのための「学び」と「実践」の拠点として現地で公民館を建設しコミュニティ開発に取り組んでいる。本事業については、学校から地域へと広がり、企業・メディア・ミュージアムなども関わって国際・平和・環境・人権・多文化共生教育の一環を担っている。②東雲公園関連:公園の一部(未利用地)を活用し、NPO法人えひめ311と愛媛大学とともに「コミュニティファーム」として取組みが展開できるよう、町内会、松山市公園緑地課等関係者との調整を図り、小学校児童の生活科の授業で環境ESDモデル学習の実践を行い伴走支援を継続している。③その他、各種学校との連携により多様な主体が地域のコミュニティづくりに関われるよう支援・助言している。 |
| 田城 孝雄 | たしろ たかお | 放送大学 | 平成9年に国立大学医学部付属病院として初めての総合医療連携部門(医療社会福祉部)を立ち上げました。さらに地域包括ケアの先進モデルである広島県尾道市の取組みの解析を行い、多くの知見を得ました。東京都保健医療計画策定協議会改定部会委員や、世田谷区地域保健福祉審議会での議論を通じ、地域における保健・医療・福祉計画の立案に関与しました。また、板橋区乳がんの地域連携パス検討委員会委員、足立区糖尿病対策協議会アドバイザー、横須賀市医師会医療連携協議会アドバイザー、さらに豊島区在宅医療推進協議会会長、文京区在宅医療推進協議会部長など、行政と三師会などとの協議会の運営に関わり、いろいろな立場の方々の意見を尊重しながら、地域の保健・医療・介護・福祉のネットワーク作りに取り組んでいます。また、全国で招請され講演を行っています。 内閣官房地域活性化統合本部 地域再生推進委員会 委員長として、地域再生を推進する方策の検討に取り組んでいます。 |
| 館 逸志 | たち いつし | 公益資本主義推進協議会 | 平成18年～25年の8年間、北陸先端大にて地域再生システム論を開講。カリキュラムの作成、企画・運営に関わる。以来、大学を拠点とする産官学連携の地域活性化に関わってきている。具体的には、北陸先端大では、温泉地の活性化、伝統工芸と地域活性化、鳥取大では、地元出身の経済人の地域貢献活動の支援としての大山活性化講座の開講、熱海・湯河原では民間主導で県境を跨る広域的な地域活性化を進める取り組みを支援してきている。内閣府の経済社会総合研究所においては、こうした大学の地域活性化システム論の展開を横断的に支援するためにカリキュラム研究会を開催、平成24年度には「地域活性化システム論カリキュラム研究会報告書」 http://www.esri.go.jp/prj/hou/hou061/hou61.pdf を纏めた。平成20年からは、木村俊昭氏らとともに地域活性学会の発足に関わり、現在副会長、研究推進委員長として産官学の連携による地域活性化を各分野で推進するプラットフォームづくりをお手伝い。公益資本主義推進協議会が進めるマイコミュニティフォーラムでは大学と地元若手実業家の連携による地域活性化を促進。企業経営者の推進する産官学協力の地域活性化事業の推進をお手伝い。母校埼玉大学では平成30年度から地元創業経営者などから学生が生業、起業、事業継承などを学ぶ「実践ベンチャー論」を開講。現在、離島振興・地方創生協会の発足に参画。2020年度には離島の農水産物のバリューチェーン構築に取り組む予定。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|-----------------------------------|--|
| 田中 丈裕 | たなか たけひろ | 特定非営利活動法人 里海づくり研究会 | <p>・アマモ場は、「海のゆりかご」と呼ばれ、海洋生態系や沿岸環境の保全に不可欠であるだけでなく、ブルーカーボンとして温室効果ガスCO2の吸着固定にも重要な役割を果たしている。「アマモ場再生活動発祥の地」と言われる備前市日生町において、35年以上にわたって漁師達と共にアマモ場再生活動に取り組み、ほとんど消滅したアマモ場を250ha以上にまで回復させた。これを契機として周辺にもこの取り組みが広がり、2007年岡山市、2013年瀬戸内市が着手し、1980年代に県下で約550haまで衰退したアマモ場は2015年には約1,845haまで回復、2015年には笠岡市、寄島町、玉野市も参画して活動範囲はほぼ県下全域に拡大、さらなるアマモ場の回復に注力している。</p> <p>・アマモ場再生活動など里海づくりをベースとして、2013年からは小中高校の子ども達、一般市民、農林業者など世代や立場・地域を越えた活動を展開するとともに、「みなと学習会」・「みなと親子学習会」などを企画開催し、海の生き物と触れ合いながら、港や海についての学びの場を提供するなど、学校教育・社会教育としての海洋教育の推進に取り組んでいる。</p> <p>・森里川海の連環を軸に据えながら、備前市・笠岡市など「里海」と真庭市など「里山」を結び、さらには人と物の流れで里海・里山・「まち」を繋ぐことにより、真の循環型地域社会の構築を目指している。</p> <p>・シンポジウムや交流会、ワークショップなどを企画開催するとともに、国内外の各地において講演や学会活動等を通じ、里海概念の普及と里海づくりに奔走している。</p> |
| 田邊 寛子 | たなべ ひろこ | まちひとこと総合計画室／うなぎのねどこ／ご近所大学うなぎキャンパス | <p>【アドバイザーとしての取り組み】</p> <p>・観光：地形や境界など地理的な要素も地域資源ととらえ、歴史や産業と合ったその地域らしい観光づくりを持続可能な仕組みづくりを視点にアドバイスをしている。 例)長野県辰野町：横川溪谷地域資源活用観光モデルコースの住民の主体的な開発事業に講師として参画。 ・社会福祉：離島の福祉について、地域資源の活用し、障がい者や高齢者の「生きがい」「自立」「持続可能」を視点に場づくりの支援を行っている。 例)鹿児島県徳之島：社会福祉法人の複数の施設の再編と改善を地域と連携した施設づくりのアドバイザーとして参画。</p> <p>【コンサルタント・景観デザイナーとしての取り組み】</p> <p>・景観デザイン：その地域の地域資源である風景は人々の暮らしと生業が根本にあり、ハードのデザインだけでなく、ヒト・コトづくりにつながる関係のデザインも同時にアドバイスしている。 例)葛飾柴又帝釈天参道周辺：住民主体の景観づくりを2004年からまちなみガイドラインの作成やまちなみ協議会の運営を支援し、2018年文化的景観に選定</p> <p>【空き家活用シェアスペースうなぎのねどことしての取り組み】</p> <p>築100年の空き家をDIYしながら改修しシェアスペースとして蘇生。3年間でイベント400回超、延べ1700人を超える人が出会いました。</p> <p>【ご近所大学うなぎキャンパスとしてのとりくみ】</p> <p>誰もが先生、誰もが生徒！趣味や特技を生かして講座を開く取り組みです。うなぎ講座を実験的に行い力を育みます。ご近所大学のような様々な活動が街中、日本中に展開することを目指しています。2019年、舞鶴本校・生口島瀬戸田CP・世田谷経堂CP・赤羽CP、そしてうなぎのねどこCPの5校があります。長野県辰野CP・鹿児島県徳之島CPが開校準備をしています。</p> |
| 田村 文男 | たむら ふみお | NPO法人 アジア・太平洋まちづくり支援機構 | <p>木造住宅密集地域の地権者、関係権利者に対して、阪神・淡路大震災の教訓を生かして、木造住宅密集地域における改善・防災・環境の向上・過密した市街地の有効活用や建物の共同化及び整備に関する研究を行い、安全で快適なまちづくりに寄与するとともに、高齢者・障害者介護及び医療施設の基盤整備を促進する事業を行い、要介護高齢者・障害者福祉及び医療の増進に寄与することを目的とするとともに、我が国のみならずアジア・太平洋地域諸国において、住環境改善、市街地の整備・有効活用、人材開発等にかかる研究、助言、推進等を行い、アジア・太平洋地域における安全で快適なまちづくりに寄与することを目的とする。</p> |
| 塚本 芳昭 | つかもと よしあき | 一般財団法人 バイオインダストリー協会 | <p>産学連携、技術移転、ベンチャーと製業企業等のアライアンス、クラスター形成等の地域振興に関する業務を実施しています。またバイオ分野のリーダー人材育成に関する業務にも取り組んでいます。</p> |
| 坪田 知己 | つぼた ともみ | 慶應義塾大学SFC研究所 | <p>2003年から2009年まで「日経地域情報化大賞」を主宰し、地域情報化の事例を幅広く取材、顕彰してきた。この経験を伝えるため、各地で講演してきた。2003年から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで「南地域活性化に取り組む学生や大学院生を指導してきた。2010年から、東京・杉並区や横浜・大倉山など「商店街活性化のプロジェクト」に参画し、その一環として、主にママさんたちに「文章の書き方」を教え、商店街の魅力を情報発信することに注力している。杉並区のと田商店街は「東京都商店街グランプリ」を受賞したまた、総務省・地域情報化アドバイザーとして「〇〇〇」、北海道、静岡県、京都府、福井県など「〇〇〇」文章講座を開き、情報発信できる人材の育成に努めている。小学校では高齢者の「聞き書き」講座も実施。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|---------------------------|---|
| 友廣 裕一 | ともひろ ゆういち | 一般社団法人つむぎや | <p>□過疎地・限界集落 日本一周プロジェクト「ムラアカリをゆく」 全国約80以上の農山漁村を訪ねた。その間はすべて地域の人の家に泊めてもらいながら、それぞれの土地に根ざした仕事を手伝わせていただく。農林水産、畜産等々の労働に加えて寝食を共にする中で、より生活に近いところから「地域」を体感し、真の「地域活性化」とはなにかを学ばせていただいた。</p> <p>□地域の未利用資源である鹿角&漁網補修糸を使った手仕事ブランド「OCICA」 石巻市牡鹿半島漁村の女性達が、土地の素材である鹿角を加工して手仕事でつくる製品ブランド。商品製作および販売を通して女性達への手仕事収入創出とコミュニティ再生を目的として開始、海外にも販売店舗を広げている。鹿革をつかった商品を地元福祉作業所とともに制作・販売中。(http://www.ocica.jp/)</p> <p>□漁網100%ミサンガ+ぼっぼら食堂 石巻市牡鹿半島 鮎川浜で、牡鹿漁協女性部有志により「漁網100%ミサンガ」の製作・販売支援を行う。その収益を元に、2012年7月には地元水産物を活用したお弁当屋さん「ぼっぼら食堂」をオープン。一般社団法人マーメイドを立ちあげ、現在も事業を継続している。</p> <p>□WEBメディア「東北マニファクチュール・ストーリー」 東日本大震災後、新たに生まれたものづくりの背景にある物語を、一つひとつの現場を尋ねながら伝えるWEBメディア「東北マニファクチュール・ストーリー」(http://www.tohoku-manufacture.jp/)の運営・コーディネートを担当。</p> <p>□東北から、アジアへの扉をひらく「DOOR to ASIA」 地元中小業者のもとにアジアの若手デザイナーが滞在し、アジアで販売するためのコミュニケーション・デザインを提案するプログラムを国際交流基金と共に企画・運営。奈良県奥大和地域や、長野県小布施町、東京都内(JR山手線)でもスピンオフ企画を実施。</p> |
| 長坂 尚登 | ながさか なおと | 豊橋屋 / WE LOVE MIKAWA | <p>愛知県豊橋市の商店街マネージャーとして、まちなか活性化のために奔走。 ■「豊橋まちなかお店マップ」「豊橋まちなか看板娘マップ」の作成 ■空き店舗を改修した交流拠点「花園ベース: HANACOYA」の設置、運営【グッドデザイン賞2014】 ■空き店舗・空き家見学ツアー ■「豊橋に日本一の図書館をつくらうプロジェクト」 などを実施。地元の学生や若手社会人らを、戦力的に活用し、成果を上げている。 <経歴・実績> H21農水省: 農業を通じた日系ブラジル人青少年と地域社会との共生プロジェクト(豊橋市) H20,21内閣府、H22,23総務省: 高齢者対応の長期滞在旅行の立ち上げ(沖縄県久米島町) H19経産省、H20全国商工会連合会: 食物アレルギー対応旅行の立ち上げ(沖縄県久米島町) その他、国内消費財メーカーなどBtoC企業へのマーケティング調査多数。</p> |
| 中島 淳 | なかしま じゅん | ㈱カルチャーアットフォーシーズンズ | <p>活動のミッション: 日本の地方により多くの「挑戦」をつくること~主体(当事者)と仕組みづくり~ 観光まちづくり、特産品づくり、移住促進、集落自立化、地域運営・経済事業、地域おこし協力隊サポート、地域の高校魅力化サポート、ローカルベンチャー支援等。 分野は幅広いのですが、全てにおいてその「主体」づくりに注力しています。 「誰が」それを行うのかを決めるプロセスを省くと、仕事は楽になりますがその取り組みは継続しません。 毎年全国10ヶ所ほどでお世話になっておりますが、いずれの地域も3年間ほどのミッションを負って、現地に入り込みます。特に最近は集落の自立化(自立自治)に関する場面が増えております。とても難しい問題ですが、将来の地域の在り方が問われる重要な問題だと捉えております。</p> <p>【2018年度】長崎県平戸市、宮崎県綾町・木城町、熊本県伊佐町、高知県香美市、愛媛県伊方町、和歌山県印南町、千葉県南房総市、北海道利尻町・厚真町、新潟県阿賀町 ほか ローカルベンチャー推進協議会(全国11団体)プロジェクト</p> |
| 蜂谷 潤 | はちや じゅん | 一般社団法人 うみ路 / 合同会社 シーベジタブル | <p>2013年3月、高知県東端に位置する室戸を拠点とした地域の会社“一般社団法人うみ路”を設立。 主に地域内で生産される農産品や水産品を使用した加工品の開発や販売、地域内外の交流イベントや勉強会の企画、カフェの運営など地域に根ざした事業を多岐にわたって展開している。 2016年4月、海藻の陸上用養殖を中心に行う合同会社シーベジタブルを設立。 室戸市の特産品である海洋深層水で海藻の陸上養殖モデルを確立。その後は日本各地で展開できるよう、海水井戸水(地下海水)を活用し海藻やアワビ類の陸上養殖のモデル作りを行ってきた。現在はこのモデルをもとに、福祉作業所や高齢者等、成立させることが難しい事業者とパートナーシップを組んだ日本各地での事業モデル作りを行っている。</p> |
| 花井 恒三 | はない こうぞう | 奄美のトラさん | <p>①奄美と本土・沖縄の人材マッチング(ヒューマンネットワークウェア) ②本土・沖縄から奄美に住みたい・投資をしたい・貢献したい方、奄美を調査・研究・提言したい方、奄美で自分を極めたい、表現したい方(マドンナ、男性 含む)への奄美の入口案内ボランティア。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|---------------------------|---|
| 林 賢司 | はやし けんじ | (株)FoundingBase | <p>地域に新たな活動を起こす時、そこには「新たなアイデア」と「実現に向けて活動を牽引する人材」が必要となる。また、ただ活動を展開するだけではなく、住民との調整を行ったり、役場と議論して目的を整理する必要もある。私たちは「地域おこし協力隊制度」を活用し、都心部から優秀な大学生・若手社会人を地方に送り込み、現地で彼らの活動の支援する仕組みを作った。これにより、若者が「新たなアイデア」を作り、かつその若者が中心となって役場や住民と一緒に活動を展開していくことができています。これまでに、カリフォルニア大学パークレー校・東京大学大学院・慶應義塾大学大学院など出た学生・若手社会人『述べ56人』が、島根県津和野町・岡山県和気町・岡山県吉備中央町・鳥取県に入り、主に教育・観光・農業・林業の分野で、地域住民と一緒にまちづくり活動を行っている。</p> <p>■ これまで支援してきた活動(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津和野高校魅力化事業(島根県津和野町) http://tsuwano.ed.jp/ ・津和野町自伐林業推進事業(島根県津和野町) http://tsuwano-ringyo.net/ ・地産地消推進事業(岡山県吉備中央町) http://www.kibichuomarche.com/ ・地域情報発信事業(島根県津和野町) http://tsmoyo.jp/ |
| 林 弘樹 | はやし ひろき | ものがたり法人 FireWorks | <p>商店街を舞台にした住民参加型映画「らくだ銀座」プロジェクトでの全国展開を機に、北海道から沖縄まで様々な事業を行っている。この事業の特色である『地域づくりに興味のない住民層をも「地域づくり」に巻き込む手法』や『個人や企業、学校等での「関係性の中から創り出す物語」の生成メソッド』が人材育成の研修として注目されている。特にそのプロセスづくりを大切にしている。</p> <p>プロジェクトの取組みの中で、多くの人々がひとつのことに向けて、時間・体力・頭脳を使い、関わり、仲間をつくり、共に汗を流す、そんな「創発型のまちづくり」をプロデュースし続けている。経済産業省「地域におけるキーパーソン活用・支援方策に関する研究会」委員として、地域からの相談に対し幅広く活躍する。地域の人を巻き込んだ場づくりを得意として、地域情報発信や自分たちの地域で創造する力を意識する講演会、討論会、ワークショップなどを行っている。</p> |
| 平原 秀則 | ひらはら ひでのり | 平原建設株式会社 | <p>例えば沖縄の慰霊地に奉納された千羽鶴。実はその最終処分の方法は自治体の大きな悩みです。そこで、千羽鶴を再生紙として甦らせ、ノートや名刺の台紙などに製品化して慰霊地の記念品として販売。これを発展途上国の子どもたちの教育に役立てています。</p> <p>また、千羽鶴の解体、仕分け作業を障害福祉施設の利用者にお願いし、工賃の向上を担っております。さらには、沖縄や広島への修学旅行の平和学習プログラムとして、千羽鶴の解体・仕分け作業のボランティア活動を組み入れるなど、人と人をつなぎ、地域とつながる方法を考えて来ました。また被災地支援では、北海道等で産業廃棄物に過ぎないホタテの貝殻を、牡蠣養殖の採苗用に被災地の被災障害者施設で加工し、広島等の養殖地に販売する取り組みを進めており、被災地の障害者の就労支援を通じて、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを再生することを目指しています。</p> <p>直近の事例としては、平成24年8月、北海道の北広島市で、障害者支援施設を経営する地元社会福祉法人の地域貢献をコンセプトに、北海道と広島の酒造協会の協力の下、銘酒の試飲会のイベント「北の酒祭り」を開催し、地域住民の絆づくり、地域活性化のお手伝いをさせていただきました。</p> |
| 福留 強 | ふくどめ つよし | 聖徳大学 / NPO法人全国生涯学習まちづくり協会 | <ol style="list-style-type: none"> ①大学と地域の連携によるまちづくりの連携 ②高齢社会の活性化の提案、「創年運動」の提唱 ③「子ほめ条例」のまちの推進、まち全体で子どもの健全育成 ④NPO法人全国生涯学習まちづくり協会での活動、まちづくりイベント、研修の企画、実施、地域の調査など、行政職員の研修 ⑤観光でまちづくり、着地型観光と指導者養成を実施 ⑥日本・韓国生涯学習まちづくり国際フォーラムの実施 |
| 藤木 徳彦 | ふじき のりひこ | オーベルジュ・エスポワール／日本ジビエ振興協会 | <p>野生鳥獣を地域の資源として活用するために、商品力をつけること、販売の方法をアドバイスする。調理に携わるプロとして、魅力ある精肉の商品づくり、調理が難しい野生鳥獣をおいしく活用できる調理方法の講習、指導、野生鳥獣と地域の特産品を組み合わせた加工品の開発指導を行う。できあがった商品は地域のみならず、大消費地にプロモーションを行い、滞りがちな流通を開く。「信州ジビエ」の例では、長野県内のジビエを使い、長野県内の福祉施設で加工品を製造し、JR東日本エリアのエキナカの飲食店において開発した商品でのメニュー提案を行い、ジビエの加工品の流通を実現した。東京駅でのジビエ弁当販売や、都内レストランを借りての地域フェアなどで地域のセールスを行う。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|-----------|------------------------------------|---|
| 北條 規 | ほうじょう ただし | 大正大学 地域構想研究所 | <p>1982年から通販事業を立ち上げ、当時は通信販売がまだマイナーな評価であったが、通販で先行しているアメリカを中心に製品を仕入れ、自社通販で販売し、日本でも独自性の高い付加価値型通販会社として注目を集めた。当時はカタログ中心であるが、スピード重視で毎月3本のカタログを発行、毎月100アイテムの新商品を開発し、どこよりもニュース性の高い商品情報を独自の編集スタイルで発信していた。その独自性が評価され、2012年にJASDAQに上場。製品の差別化を図るために全国の産地を回ってオリジナル商品を開発し、市場に投入することで地域性の高い製品を数多くヒットさせることができた。また、2007年より経済産業省関東経済局の「地域資源活用」「農工商連携」の事業評価委員に就任し関東局管内の事業評価ならびに支援活動に携わることで、地域資源の活用、六次産業化をはじめ全国の事例やビジネスモデル、事業スキームなどの豊富な知見とノウハウを有している。加えて、2012年から大正大学地域構想研究所の教授に就任したのを契機に、大学のプラトホーム(大学が運営するアンテナショップ、学生のフィールドワーク、研究調査活動、全国90自治体との連携)と連携しながら、地域資源の発掘、地域産品や観光地域づくりの再編集などその分野が広がり新しい付加価値化の取り組みを行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した新商品の企画、開発(食・プロダクト) ・地域のブランディング、地域デザイン ・マーケティングとメディアへの情報プロモーション ・新規事業の事業計画の策定とプロデュース |
| 本田 勝之助 | ほんだ かつのすけ | 本田屋本店 有限会社 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 農業と食から実績を積んだ地域プロデュースの総合専門会社を経営。 2. 代表商品は「本田屋継承米(氏郷)」。肥料開発及び、生産管理、販売まで一貫して行っている。納入先には銀座久兵衛や金田中などの名店、京都伊右衛門サロンなどカフェレストラン等で使われている。 3. 全国各市町村への戦略的アドバイス、ブランドや商品開発、産業活性化への各種取り組みなどの要望に応え、地域との官民連携で戦略的にプロデュースしている。 4. 伝統工芸品のリブランド、商品開発。(Futradition WAOとの協業) 5. クリエイティブ:PR制作物(コピー、ポスター、リーフレット、映像、各種) 6. 観光やまちづくり、スマートシティ等のモデルづくり。 7. 日本遺産認定の全地域に対しての統括プロデューサー業務 |
| 前神 有里 | まえがみ ゆり | (一財)地域活性化センター/愛媛県伊予市移住サポートセンターいよりん | <p>取組のキーワードは、人財育成、移住、関係人口、希望活動人口、遠隔地・遠隔自治体間連携、虐待防止、権利擁護、生活困窮者支援、地域共生社会です。課題から入るのではなく新しい価値を創造することで解決していく、巻き込むよりも共感で仲間を増やすようにしています。人・コト・地域・取組を横につないでいく「横結(よこゆい)」、異分野連携・広域連携・遠隔地連携が得意です。若手職員・学生人財育成、移住交流の地域づくり、横結の地域づくり・人づくり・仕組みづくり・場づくりの研修・ワークショップ・計画策定、事業進め方等、お気軽にご相談ください。</p> |
| 松嶋 匡史 | まつしま ただし | 株式会社瀬戸内ジャムズガーデン | <p>手作りジャム専門店「株式会社瀬戸内ジャムズガーデン」代表取締役。周防大島観光協会副会長のほか山口県のキャリア教育推進委員や活力創出推進会議委員なども務める。</p> <p>2001年10月に新婚旅行先のバリでジャム屋と出会い2003年11月個人事業として手作りジャム専門店を高齢化率日本一と言われた瀬戸内の島、周防大島(山口県)にて創業。</p> <p>耕作放棄地を借り受けて自社農業部門を立上げ、現在はブルーベリー・あんず・金時いも・いちご等を生産。店舗では自家製ジャムを活用したスイーツが楽しめるカフェギャラリーを運営するなど、ジャム加工のみでなく、農業(一次産業)・加工業(二次産業)・サービス業(三次産業)をミックスした6次産業形態の事業を展開。地域を巻き込んだ6次産業化を実践している。地域資源を活用し、地域に産業と雇用を創出することを主眼に活動を展開し、現在では首都圏からの移住者を含めスタッフは30人の規模。最近はお寺と連携した空き家のリノベーションで移住者の呼び込みを行ったり、全国初の小中高連携起業家教育への取り組みなど活動は多種多様。2014年新書大賞受賞の「里山資本主義(角川書店)」などでその取り組みが紹介されている。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|------------|---|---|
| 松島 信雄 | まつしま のぶお | (公益財団法人)南信州・飯田産業センター | <p>地域の中小企業の体質改革と新産業クラスター形成に取り組んでいる。事業は4つの柱を基本にしている。</p> <p>①ネットワーク形成と地域連携事業: 広域連携としては新潟等との協力活動を展開している。飯田地域においては企業間の交流を通して相互の信頼を高め、協力風土の醸成を図っている。また産学公の連携で地域のポテンシャルアップに繋げている。</p> <p>②新産業クラスターの育成: 航空宇宙クラスターの形成を重点プロジェクトとして位置づけている。</p> <p>4つのワーキングチーム活動を通してQMSの体制確立や技術の向上を図りながら地域一貫生産、共同受注を目指し、実績を上げている。</p> <p>③販路開拓支援: マーケティング機能を持たない中小企業にとって販路開拓は大きな課題である。海外も含めた展示会出展や顧客開拓支援に力を注いでいる。海外市場開拓支援としてParis, Farnborough, Belrin, Singapole, HK, Toulouse, NBAA等のAirshowに出展参加してきた。</p> <p>④人材育成: 技術・技能のレベルアップと後継者育成を目指して、働きながら学ぶ風土を醸成しようと産業技術大学を立ち上げ人材育成に注力している。年間150社を超える企業から延べ1000~2000人近い企業人が学んでいる。2014年には地域企業人材共同育成事業の経産省委託を受け、地域共同人材育成プロジェクトマネージャーも務めた。航空宇宙のQAと生産技術コンサルティング、非破壊検査員の育成に取り組んでいる。</p> |
| 松原 裕樹 | まつばら ひろき | 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター | <p>1982年広島生まれ。NPOや企業、渡米経験を経て、環境、教育、地域づくり、観光、防災などに関する事業の企画、運営、コーディネートを行っている。2017年からひろしまNPOセンター事務局長に就任。ゆたかな市民社会の実現に向けて、NPOやボランティア活動の支援、地域課題の解決やSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた多様な主体との協働に取り組む。平成30年7月豪雨災害では広島市災害ボランティア本部の副本部長を務めた。環境省中国環境パートナーシップオフィス(EPOちゅうごく)・中国地方ESD活動支援センター事務局長。</p> |
| 三角 幸三 | みすみ こうぞう | 一般社団法人障がい者起業・就労支援協会/COMPROデザインファシリテーション研究所(CPDFI) | <p>○家庭教育コミュニケーションプログラムの作成(熊本:親の学び、長崎:ファミリープログラム宮崎家庭教育サポートプログラム)及びファシリテーターの育成</p> <p>○組織活性化、地域づくりのためのワークショップ活動</p> <p>○図フレームを使ったファシリテーション、ワークショップ活動</p> <p>○親同士、親子、子ども同士のコミュニケーションプログラムの提供</p> <p>○地域づくり、商店街活性化、地域の絆づくり活性化、及び社会教育・公民館活動の活性化</p> <p>○講師・ファシリテーター養成研修</p> <p>○防災ワークショッププログラム</p> |
| 御園 慎一郎 | みその しんいちろう | 大阪大学/地域活性学会 | <p>・自治省入省後、地方税財政制度の企画立案に参画。また、福井県、愛知県、茨城県において県政運営に関わるとともに県下市町村の行財政運営にも関与する。制度立案過程の構造と組織運営の提言を学ぶ</p> <p>・サッカープレーヤーであったことなどによる日本サッカー界との縁で2002FIFAワールドカップ組織委員会に勤務。アジアで初めて、初めての共同開催というワールドカップの成功に寄与。スポーツの持つ一体感や形成力を実感するとともにサポーターとの距離感の取り方の重要性や国際的事業における交渉力の大切さを痛感。</p> <p>・内閣官房地域再生本部において地域社会の活力を構築するための国家組織をあげてのシステムを構築。その一環として地域再生法を制定。全国に地域再生の輪を広げる。</p> <p>・地域再生のため大学との連携システムを考案。「地域再生システム論」として30を上回る大学における地域活性化講座開設に寄与。自らも複数の大学で教鞭もとる。</p> <p>・地域活性化をともに語りともに進めるための集団としての「地域活性学会」の設立を発案。発足にも貢献。現在副会長として学会活動の進展、とりわけ学会スポーツ振興部会長として2020東京オリンピックパラリンピックのホストタウン運動を契機とした地域づくりの支援活動を積極的に展開中。</p> <p>・厚生労働省において介護保険や生活保護などを担当。介護予防を地域で支える事業の一環としてJリーグのチームによる地域の健康作り活動の展開を提唱し実現に。その延長線上の活動として医療介護のサービスの質の向上や究極の地域づくりである「地域包括ケアシステムの構築」に際して欠かすことのできないヘルスデータをクラウド上で管理することを目的とするNPO法人の活動を展開中。</p> |
| 宮城 治男 | みやぎ はるお | 特定非営利活動法人ETIC.(エティック) | <p>自らの意志と行動で社会の課題を解決し新しい価値を生み出す「起業家型リーダー」の育成及び輩出並びに「起業家型リーダー」を育む社会基盤の創造及び整備を行うことを通じて社会全体の変革を創造し、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。</p> <p>取組概要</p> <p>(1) 起業家型リーダー育成事業</p> <p>(2) 起業家型リーダーを育む社会基盤創造整備事業</p> <p>(3) 職業紹介及び労働者派遣事業</p> <p>(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|----------|---|--|
| 向井 哲朗 | むかい てつろう | こどもエコクラブ彦名地区チビッ子環境パトロール隊・NPO法人エコパートナーとっとり | 「子供も大人も身近な環境問題を五感で感じる事が課題解決へ繋がる近道」との発想から、1990年にこどもを中心とした「彦名地区チビッ子環境パトロール隊」を結成。テーマは、身近な大問題である「中海の水質浄化」。家庭から出る生活排水と中海の水質汚濁の勉強が始まり、水質汚濁の大きな原因となる廃天ぷら油の回収がスタートした。この活動は、現在、障がい者施設の皆さんとBDF製造にまで発展している。全国で初めての試みでもあった使用済み割り箸を回収し製紙工場と協働して紙再生への取組みについて問題提起。鳥取県米子市で地元のホテル温泉街に協力を呼び掛けて始まった本取組みは、今では地域全体での取組から、更には全国区の事業にすることができた。身近な環境を体で知り、そこに存在する問題をきちんと理解し、自ら活動することを覚えれば、地球温暖化防止への道は近い。25年以上に渡って継続している割り箸・廃天ぷら油の回収・再資源化活動は、地球を愛することができる豊かな心を持った人間を育てている。廃油ローソク作り・牛乳パックから手づくり葉書きづくり・環境パトロール・廃バンスト等を利活用した生活排水浄化方法・メダカ/ホタル観察会・水鳥観察会等体験型学習の指導、グラウンドワーク活動・環境を基軸にした協働の街づくりの継続実践をしている。 |
| 森賀 盾雄 | もりが たてお | 人間環境大学 | 36年間「はみ出し公務員」といわれ、新居浜市職員として前例のないことを主に取り組んできた。市職員退職一年前に愛媛大学に引っ張られて専任准教授になり、一年後に経済学博士学位を取得し、さらにもう一年後に教授になった。担当科目は「起業論」「マーケティング論」「地域マネジメント論」など。愛媛大学では愛媛大学紙産業修士コース創設に中心的役割を担い2010年に開設(現・バイオマス資源学コースとして全国の紙産業の研究・教育の拠点化を進めている)。2015年に六年間の専任教員を退職し、非常勤講師をしながら地域人材づくりに奔走。愛媛大学社会人講座修了生(愛媛県内をはじめ近県165名)を中心とした「地域再生塾」塾長、高知県須崎市「須崎未来塾」塾長などで、人と地域に内在して地域づくりに取り組んでいる。産業遺産活用では我が国草創の頃から30年以上取り組み、新居浜市の新しい顔に定着させた。市職員・大学教員・地域人材塾で蓄積した地域現場に適合した知的地域づくりを進めている。得意とするのはイノベーション論・マネジメント論・マーケティング論の様々な分野に横断的に適用した分析・実践である。 |
| 森田 潔 | もりた きよし | 一般社団法人 神戸港振興協会 | ①地域の様々なイベントの実施 ・神戸港カッターレース～横浜・大阪・広島・南淡町・豊岡市など 全国のカッターレースに実施要領を提供し各地で開催されるようになった。 ・メリケンフェスタ、みなとこうべ海上花火大会、Kobe Love Portみなとまつり、KOBE みなとマルシェ、波止場まつり、神戸港フオークリフト荷役技能向上大会、神戸まつりヨットレース、神戸港ポート天国、ロープワーク教室、ボトルシップ教室、市民クルージング、体験航海、進水式見学会など ②産業観光への取組み ・コーディネーターとして案内したり、旅行商品となりうるものの発掘 ③クルーズ客船や帆船の入出港の歓送迎や船内一般公開の実施 ④海事人材の育成 ・県下の小・中学校への出前授業や船を使った海上からの港の見学等 |
| 森本 明夫 | もりもと あきお | COテクノロジー株式会社 | - |
| 矢口 正武 | やぐち まさたけ | NPO法人 元気・まちネット | 多くの地方は少子高齢化によって過疎化が進んでいます。元気・まちネットは、そうした過疎に悩む地方から、相談を頂ければ出かけて行き、地元の皆さんと膝を交えてお話をし、その土地にまつわる歴史・文化を掘り起こし、その土地ならではの活性化に寄与出来ればと考えています。また、スポーツイベントの開催にしても協会や連盟などに登録しなくても可能なローカルルールを考案・構築して、地元の方々も一緒に参加出来る、楽しめる企画を考案出来ます。 |
| 箭内 武 | やない たけし | 株式会社YANA総合研究所 | 1. 改善コンサルティング(セル生産方式) 材料メーカー、家電、電子部品、機械加工、製造工場の現場改善を中心としたコンサルティング。調剤薬局の在庫削減、労働時間の改善など。 2. 人材育成 青森県、八戸市等の人材育成プログラムに従事。高校生、大学生、社会人の研修講師として活動。 八戸学院大学客員研究員として地域社会人向けセミナーを行う。 3. 企業マッチング支援 ものづくりコーディネーターとして産学官の連携、企業の国内外のビジネスマッチングを企画実施。 |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|----------|-----------------------|---|
| 矢野 富夫 | やの とみお | 高知県橋原町 | <p>町長時代に、町民の不安に思うことや町内外の意見等を調査分析し、絆と自立をキーワードに、小さな拠点ゆずはらづくりを掲げ、「自分たちでできることは自分たちです」を合言葉に、地域の課題を解決する小さな拠点・地域運営組織(橋原町では集落活動センターという。)を町内全域に6ヶ所設立するとともに、ゆずはら未来大使を任命している国立競技場を設計した世界的建築家隈研吾氏とともにまちづくりに取り組み、町内にある隈研吾氏が設計した6つの建築物を生かしながら、町民みんなと心一つに、生きる仕組みをつくり、人口減少に歯止めがかかりはじめるなど、まちづくりのモデルとなっている。</p> <p>そうした経験から、全国各地の大学、各種団体、市町村や市町村議会等に出向いての講演や内閣府の小さな拠点・地域運営組織の形成推進に関する有識者懇談会委員及び学校法人平成学園アドバイザー等の活動を行う。</p> |
| 矢原 正治 | やはら しょうじ | 山陽小野田市立 山口東京理科大学 薬学部 | <p>1) 山陽小野田市の江汐公園内の薬用植物園を管理しています 2) 現在、山口東京理科大学の校内に薬用植物園を作っています 3) 薬用植物を知らうin熊本を毎年一回開催しています(2019年は第19回) 4) 八幡薬剤師会の皿倉山での薬用植物観察会の講師を担当しています</p> |
| 山川 進 | やまかわ すずむ | 公益財団法人 三重県産業支援センター | <p>・「企業誘致」…製薬会社、外資系企業など大型企業誘致を実現。東京、福岡において「SOHO(スモールオフィス・ホームオフィス)形態」での企業誘致活動を行い、企業・行政との新たなネットワーク構築を行う。</p> <p>・「新たな企業投資促進制度の創設」…マイレージ制度、マザー工場化の促進などを柱とする新たな制度を創設し、県内への企業投資を促進。</p> <p>・「コンビナートの再生」…行政・産業界が協働した、規制改革や新たな産業展開の内容をパッケージとし、構造改革特区に申請、第1号認定を受けることに尽力する。</p> <p>・「様々な連携」…「地域発のオープンイノベーション創出」を行う「高度部材イノベーションセンター(AMIC)」を三重県四日市市に設置。地域の産業構造の「知識集約型産業構造」への転換を目指す。ここで、現在も異業種・同業種連携、大企業と中小企業の連携、各種課題解決、産業人材の育成などを行っている。</p> <p>・「温泉街の活性化」…三重県菟野町の湯ノ山温泉にて、各業者での取組を地域一丸となったものへとコーディネートし、「女将の会」結成などにつなげる。</p> <p>・「町おこしリーダー研修」…三重県紀北町の町おこしリーダー研修にてアドバイザーを務め、研修生の成果を行政や地元産業界とも連携した継続的な取組へと繋げる。</p> <p>・「中小企業連携(シンジケート)の促進」…複数のものづくり中小企業が得意とする技術やノウハウを結集し、技術レベル向上や新たなマーケット開拓などにつなげるための中小企業連携体の構成に尽力。三重県には全国トップクラスの連携体が構成されるに至っている。</p> <p>・「三重県海外ビジネスサポートデスクの開設」…成長する新興国等の市場を取り込むため、中小企業の海外展開を支援する「海外ビジネスサポートデスク」(中国、ASEAN)の設置に尽力。</p> <p>・「三重県と北海道との産業連携」…「『三重県・北海道』産業連携推進会議」の設立に尽力。三重県と北海道の「ものづくり技術」と「地域資源」の連携を進め、新たなビジネスの創出、さらには地域経済の活性化に繋げる。</p> <p>・首都圏営業拠点「三重テラス」…東京日本橋において、三重県の魅力を総合的に発信する拠点「三重テラス」の開設に尽力。</p> <p>・三重県中小企業・小規模振興条例の策定に尽力</p> <p>・職員研修センターで県職員向けの研修を実施。三重県職員の人づくりの参画、三重県の商工部門の第1人者として活躍した経験を基に、自ら研修講師として三重県職員に語りかけることで、現場を大切にす職員を育成。</p> <p>・経済産業省の「ひとづくりの切磋琢磨による地域創生実行会議」の委員として参画。</p> <p>・沖縄県と連携して、沖縄の物流特区を活用した東アジア戦略を模索するほか、他地域との連携を検討中。さらに地域のコアとなる中小企業との連携を深めて、海外への販路拡大や現地での人材育成の取組を進める。</p> <p>・各地の事業者や産業支援機関と連携し、地域商社等を通じた地域製品の販売や中小企業が連携した新たなビジネスや人材交流を促進。</p> |
| 山岸 秀雄 | やまぎし ひでお | NPOサポートセンター/法政大学 名誉教授 | <p>NPOの社会的役割である「地域・社会の課題解決と社会システムの変革」をよびかけ、全国のNPOと中間支援組織の支援を続けて約4半世紀が経った。NPOには様々な役割があるが、私とNPOサポートセンターは人材育成・雇用問題と政策提言を軸に「産官学民プラットフォーム」(NPOと大学を軸にしたコミュニティ創り)、社会的企業、新しいコミュニティ創出としてのマンシオン問題の実験、NPOの教育力による地域教育の再生等に取り組んでいる。個人的には湘南最大の自然(660ヘクタール)を誇る二子山山系自然保護活動の理事長として産官学民の協働事業を行ってきた。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|------------|---------------------------|---|
| 山田 桂一郎 | やまだ けいいちろう | JTIC.SWISS | <p>これまで北海道から沖縄県の離島まで全国各地のあらゆる地域振興や活性化に関わってきました。特に、住民主体の地域経営組織の立ち上げと運営や民間事業として様々なビジネス化による収益事業で成果をあげています。基本は全て「自立」と「持続」です。また、政策、施策、事業化には地域経営の視点を重視しています。どれだけ良い計画やデザインであったとしても人間社会の「エゴ」と「利害」により全てが崩壊します。多くの地域で、行政の単年度やりっぱなし事業で地域が疲弊疲労している現実があります。地域住民も何をやって良いのか全くわからない場合もあります。それ以上に目の前の生活に困っていない人もいます。この様な状況から脱出するためには、地域の問題、課題を自分事として住民が認識することが重要であり、住民が根本的な解決と共に自らの未来を切り開く活動に取り組むことが必要です。学問や机上の空論の世界ではなく、日々現場で地域の生き残りを皆さんと一緒に真剣に考え、実践しています</p> |
| 山中 守 | やまなか まもる | 国立大学法人 熊本大学 | <p>主に地方自治体の情報政策の立案に携わっています。</p> <p>また自主的な活動として地域資源の掘り起こしに関するセミナーを定期的を開催しています。</p> |
| 遊佐 順和 | ゆさ よりかず | 札幌国際大学短期大学部総合生活キャリア学科 | <p>◆地域資源活用による地域の活性化と矜持形成の活動 2013. 7～2014. 3 「域学連携 北海道利礼3町活性化モデル事業」 - 利尻島、礼文島の地域資源を活用したご島地グルメ、観光マップの創作 - 2015.10～2018.12 「日本の昆布文化と道内産地の経済社会の相互連関に関する研究」 (日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会学研究推進事業」 実社会対応プログラム(公募型研究テーマ)、研究分担者) 2018. 7～2018. 9 「北の昆布展」実行委員会委員 (於:市立函館博物館) 2018. 8～2018. 9 「プロから学ぶお昆布の旨み探訪(昆布の品種別6回シリーズ)」 ホテル、レストラン、老舗料亭の料理人、昆布屋主人等を講師に迎えた 料理教室の企画運営 (於:函館市国際水産・海洋総合研究センター) 2018. 8 「北の昆布シンポジウム in HAKODATE」主催 (於:レストランバスク) 2018.10 “鹿部町応援企画”「食と健康からこれからの観光を考えるタベ」主催 (於:札幌グランドホテル)</p> <p>◆地域資源の価値を学ぶ教育プログラムの開発 ① 奈良、京都の老舗名宿、料亭、和菓子屋等を巡り、北海道食材の優位性を五感で体感。 ② 那覇、首里、今帰仁、伊江島を巡り、独自の食文化、歴史、自然や伝統工芸などを学ぶ。</p> |
| 横山 幸司 | よこやま こうじ | 国立大学法人 滋賀大学産学公連携推進機構 経済学系 | <p>私は大きくは次の5つの方法によって地域の課題に取り組んでいます。</p> <p>1つ目は、国や地方自治体の各種行政委員会等への委員等としての参画です。一般行政から教育行政まで、各種行政計画や方針の策定等に携わっています。</p> <p>2つ目は、自治体や団体が実施される研修会等の講師です。自治体職員向けや、企業向けの専門的な研修から、一般市民向けの講演までTPOに応じた講演を実施しています。</p> <p>3つ目は、自治体や団体が実施される研究会やワークショップ、フォーラム等の座長、コーディネーター、ファシリテーター、メンターとしての参画です。</p> <p>4つ目は、自らが大学としての「学」の役割を踏まえて事業を主催あるいは共催するものです。「淡海公民連携研究フォーラム」など産官学金のネットワークの構築や「行政経営改革塾」などの地域人材育成システムの企画・運営により、地域経済の活性化、地域人材の育成に取り組んでいます。</p> <p>5つ目は、自治体における「事務事業見直し」や地域における「地域診断」などを現地にて行い、助言や提案をするコンサルティングです。近年はこのご依頼が多くなってきています。</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|-------|-----------|---------------------|--|
| 吉澤 武彦 | よしざわ たけひこ | 一般社団法人 日本カーシェアリング協会 | <p>寄付で集めた車を使った以下の3つの支援事業を行っています。</p> <p>①ご近所のカーシェアで支え合う地域を作るサポート(コミュニティ・カーシェアリング事業)</p> <p>被災地の高齢化・交通弱者・コミュニティ作りといった課題に向き合い作られた取組。従来のカーシェアと異なり①地域づくりを目的として、②住民がルールと役割を決めて運営を担い、③車の維持費など経費実費を平等に分担する特徴を持ちます。石巻市では地域づくりの手法として行われており、石巻で10地域・石巻以外での5地域の導入実績があります。(2020年3月時点)</p> <p>②災害時に車が不足して困らないための仕組み作り(モビリティ・レジリエンス事業)</p> <p>発災時に寄付車を現地に集め被災者や支援活動を行う組織に車を無料で貸し出す支援活動を行っています。いざという時に有機的な連携ができるような体制作りをサポートします。</p> <p>③人と地域を元気にする仕組み作り(ソーシャル・カーサポート事業)</p> <p>地域の自立支援のプロと連携した生活困窮者への低価格リースや、商業レンタカーが出店できない人口規模の地域を地域連携して訪れる人が車を借りれる仕組み作り等をサポートします。</p> |
| 吉田 敦也 | よしだ あつや | 合同会社テクサラダ | <p>専門は人間中心主義の情報デザイン。コミュニティ基盤型学習プログラム開発、対話の場づくりとプロセスファシリテーション、未来設計など。長年にわたり地域創生の実践、リーダー育成、場づくりに取り組んでいます。2015年9月、3年間にわたる北欧調査を経て、国立大学初の徳島大学フューチャーセンターABAを設計/開設し、第29回日経ニューオフィス賞四国ニューオフィス推進賞を受賞。また、大学キャンパスを活用した徳大ファーマーズマーケットの開発/実践、徳島の豊かな自然を活用したハンズオンプログラム「上勝自然学校もりのべ」の開校にも成功し、感じる力をもった次世代育成、持続し変化に強いコミュニティ形成のための研究/開発/実践に実りをつくっています。2018年からは徳島県小松島市と共同した「こまつまりビングラボ」(JST未来共創事業)のプロジェクトリーダーに就任。一次産業/産業創発を基盤にした地方創生イノベーションを推進しています。このプログラムの中では、米国オレゴン州ポートランドやオランダと連携した日本初の「社会共創キャンプ」を実施しました。2019年、これらの経験を基礎に、未来デザインと社会イノベーションのコンサルティングファーム「合同会社テクサラダ」を設立、CEOに就任。東京大手町エコッツエリア協会3x3 Lab Futureを拠点にしたインパクトデザイン研究会を主宰し、「古民家を活用した酒蔵ホテルづくり」プロジェクト等を実践しています。徳島大学では授業「SDGsと地域イノベーション」(総合科学部、非常勤)を担当しています。</p> |
| 吉富 慎作 | よしとみ しんさく | 特定非営利活動法人 土佐山アカデミー | <p>■特定非営利活動法人土佐山アカデミーの取組み</p> <p>土佐山アカデミーは「次の100年のために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場づくり」というミッションを掲げ、5つの事業ドメインを展開し、年間を通して開催している短期・長期ワークショップや研修には事業開始から延べ9,800人以上が受講しています。</p> <p>【TOSAYAMA ACADEMY(循環型の生活を地域の方から学ぶワークショップ群)】は、日帰りから3ヶ月滞在型プログラムまで、地域の課題を資源と捉え、それに基づいた年間12本以上のワークショップを展開。</p> <p>【土佐山ワークステイ(中長期滞在支援サービス)】都会の方に「家を貸し、車を貸し、コネを提供する」土佐山に滞在し、土佐山のための仕事をする方へのプログラム。</p> <p>【EDGE CAMP(中山間地域特化型起業家養成プログラム)】「雇用がないだけで、仕事はある」。地域での仕事の作り方を6ヶ月間かけて仲間と共に学んでいくものであり、日本財団より補助を得て実施している。</p> <p>【TOSAYAMA Creative Camp(企業・団体研修)】平成27年から実施。地域の課題を研修教材へと編集し、地域おこし協力隊の研修のみならず、高知県庁、大手企業本社等からの人材育成研修を行っている。</p> <p>【コンサルティング サービス】企業の事業企画、他地域の地域づくり、交流人口増加のためのコンサルティングや行政の委託事業受注等。</p> <p>■受賞歴 2014年環境省グッドライフアワード 環境と学び特別賞 2016年農林水産省 オーライニッポン大賞受賞</p> |

| 氏名 | ふりがな | 所属名称 | 取組概要 |
|--------|----------|--|---|
| 吉弘 拓生 | よしひろ たくお | 一般財団法人地域活性化センター | <ul style="list-style-type: none"> ◆地域資源を活かした交流連携のまちづくり ・森林セラピー導入に係る助言、現地指導、人材育成等の伴走支援 ・「森林サービス産業」に係る現地指導 ・地域循環共生圏導入にあたっての事前研修 ◆地方公務員を対象にした研修・講演 ・都道府県、市町村階層別研修講師(幹部職員研修、中堅職員・新規採用職員研修) ◆金融機関等と連携した取り組み ・奨学金創設に関するアドバイス ・官民連携での地方創生の取り組みに係るアドバイザー ◆働き方改革・ワーケーション ・民間企業と連携したワーケーション誘致アドバイザー ・自治体の企業誘致に係るアドバイザー、マッチング支援 |
| 米山 けい子 | よねやま けいこ | 認定NPO法人フードバンク山梨 (一般社団法人全国フードバンク推進協議会) | <ul style="list-style-type: none"> ・フードバンク活動は食品ロス削減と貧困問題の解決を目指す ・子どもの貧困など地域の課題を地域で解決できるシステムを構築 ・県内自治体・企業・市民の連携でこれまでに3万件の生活困窮者への食料支援を実施 ・小中学生、乳幼児への支援を学校や保育園と連携し、食料支援・学習支援・イベントを実施(のべ7206人の子どもを支援) ・年間ボランティア約2000人(半分は学生)、若者の郷土への愛着を育み、人口減少を抑制する効果を目指す ・失われた縁をフードバンク活動で再生する。 |